

平成24年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第60回学術集会（平成24年4月26日～27日）
会場：長崎ブリックホール ほか
会長：松本哲朗（産業医科大学泌尿器科）
2. 第59回東日本支部総会（平成24年10月10日～12日）
会場：ホテル日航東京
会長：金子明寛（東海大学医学部外科学系口腔外科）
3. 第60回西日本支部総会（平成24年11月5日～7日）
会場：アクロス福岡
会長：山中 昇（和歌山県立医科大学医学部耳鼻咽喉科）
4. 本年関連国際学会として
第15回アジア・パシフィック臨床微生物感染症学会（旧：西太平洋化学療法感染症学会（平成24年10月25日～28日・北京）

B) 会務

1. 年度末正会員数 6,666名
年度末賛助会員数 30団体、団体会員数 202団体
2. 平成24年度評議員会、同定期総会は平成24年6月2日に東京国際フォーラムで開催された。
3. 新評議員（平成24年5月～平成25年5月）
東日本支部4名（現在230名）
内納 和浩（第一三共株式会社学術調査部調査・試験第三グループ）
奥村 亮（第一三共株式会社生物医学第四研究所）
崔 龍洙（北里大学抗感染症薬研究センター）
平井 由児（東京女子医科大学感染症科）
西日本支部4名（現在197名）
池ヶ谷諭史（福井大学医学部附属病院内科学（1）感染症膠原病内科）
小松 方（天理医療大学医療学部臨床検査学科）
志馬 伸朗（京都医療センター救命救急科）
吉田 弘之（神戸大学医学部附属病院感染制御部）
4. 理事会7回開催

平成24年4月、6月（2回）、7月、9月、11月、平成25年2月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌（委員長 清田 浩）

- ・編集委員会 6回開催
- ・編集状況
 - 平成24年 第60巻3号～6号
 - 一般誌 4冊（掲載論文数20編）
 - 平成25年 第61巻1号～2号
 - 一般誌 2冊（掲載論文数6編）
 - その他編集中 1冊
- ・二重投稿、盗用、および捏造が判明した場合の罰則規定を設けた。
- ・電子書籍KaLib（カリブ）を第60巻から発行した。

2) Journal of Infection and Chemotherapy（委員長 松本哲哉）

- ・編集委員会 6回開催
- ・編集状況
 - 平成24年
 - Vol. 18 No. 2～6（掲載論文数 138編）
 - 平成25年
 - Vol. 19 No. 1（掲載論文数 29編）
- ・インパクトファクターが、2012年6月29日付けでトムソン・ロイター社から発表され、2011年のインパクトファクターが「1.796」という結果になった。
- ・二重投稿、盗用、および捏造が判明した場合の罰則規定を設けた。
- ・論文アクセプト後の各種手続きがオンライン上で出来る新システム「MyPublication」を導入し、それに伴う投稿規定を改定した。
- ・JIC Award受賞
 - 内村 暢（横浜市立大学市民総合医療センター小児総合医療センター）
「Analysis of cases of severe respiratory failure in children with influenza (H1N1) 2009 infection in Japan」(Vol.18 No.1 p.59-65)

3) 用語委員会（委員長 清田 浩）

抗菌化学療法用語集の見直しを行い、学会ホームページで検索可能なオンライン用語集の編集作業を行った。

2. 学術委員会（委員長 草地信也）

- ・認定学術集会 申請27件 認定27件（平成23年度 申請25件、認定25件）

・ 学術奨励賞受賞者

第 60 回学術集会

和知野純一（国立感染症研究所細菌第二部）

「臨床分離カルバペネム耐性 *Serratia marcescens* より発見された新規メタロβ-ラクタマーゼ SMB-1 の解析」

久保美佳（川崎医科大学小児科学）

「マクロライド耐性マイコプラズマ感染症に対するロキタマイシンの臨床効果」

日本化学療法学会雑誌

木場由美子（広島大学病院診療支援部）

「多剤耐性緑膿菌に対する抗菌薬 3 剤の *in vitro* 併用効果」

Journal of Infection and Chemotherapy

萩原真生（愛知医科大学病院薬剤部）

「Exploration of optimal teicoplanin dosage based on pharmacokinetic parameters for the treatment of intensive care unit patients infected with methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*」

3. 学会賞選考委員会（委員長 公文裕巳）

志賀潔・秦佐八郎記念賞の候補者について検討し選考を行った。

受賞者：戸塚恭一（東京女子医科大学感染対策部感染症科）

研究テーマ：「抗菌薬の薬物動態および薬力学に関する研究

—動物感染モデルから人への応用—」

4. 国際渉外委員会（委員長 松本哲朗）

平成24年10月25日～28日に第15回アジア・パシフィック臨床微生物感染症学会が開催された。日本からの参加は極めて少なかった。

5. 第28回国際化学療法学会準備委員会（委員長 河野 茂）

1) スポンサー企業の募集を開始した。

2) 組織委員会及びプログラム委員会を開催した。

3) 同時開催学会および研究会との調整を行った。

4) 各種国際学会でのプロモーション活動を行った。

6. ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 舘田一博）

平成25年1月11日に第1回委員会が日本化学療法学会事務局で開催され、その方向性について議論された。

7. 未承認薬検討委員会（委員長 三嶋廣繁）

1) 平成24年6月、7月、9月にバンコマイシン経口薬検討部会委員会を開催した。

2) 11月に高用量メロペネム検討部会を行い、メロペネム1日6g投与による細菌性髄膜炎を対象とした第Ⅲ相臨床試験結果について検討を行った。本部会としては、一般細菌感染症に対するメロペネムの用量上限が欧米と同様に1日3gに変更（承認）され、細菌性髄膜炎に対する第Ⅲ相臨床試験（1日6g）が終了したこと

から活動を終了することになった。

8. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会（委員長 三嶋廣繁）

1) 指導者制度講習会開催（年3回：45、46回、47回）

第60回日本化学療法学会学術集会：平成24年4月26日（長崎）

第59回東日本支部総会：平成24年10月12日（東京）

第60回西日本支部総会：平成24年年11月5日（福岡）

2) 抗菌薬臨床試験指導医・指導者および認定医、認定者の新規申請および認定作業を行った。

9. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 三笠桂一）

・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催

第22回 平成24年4月26日 長崎ブリックホール

第23回 平成24年6月2日 東京国際フォーラム

第24回 平成24年10月10日 ホテル日航東京

第25回 平成24年11月5日 アクロス福岡

・抗菌薬適正使用生涯教育ビデオセミナー

東京：平成24年7月15日 日内会館

奈良：平成24年9月2日 東大寺総合文化センター

神戸：平成24年9月30日 神戸大学医学部大講義室

福岡：平成25年1月13日 九州大学医学部百年講堂

札幌：平成25年2月3日 札幌医科大学記念ホール

・委員会を数回開催した

・指導医・認定医・認定歯科医の認定申請受付

・認定者 指導医：70名 認定医：160名 認定歯科医師：26名

・抗菌化学療法指導医試験を平成24年12月2日（日）に実施した。

・抗菌薬適正使用生涯教育テキスト改訂版の執筆を行った。

10. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 竹末芳生）

・認定薬剤師講習会の開催

第7回 平成24年6月17日 神戸国際会議場

第8回 平成24年10月26日 朱鷺メッセ

・認定薬剤師の試験実施および認定作業を行った。認定者123名

11. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 門田淳一）

1. 第1回（2009年）サーベイランス

1) 呼吸器感染症（4回目・684株）

論文を *Journal of Infection and Chemotherapy* に投稿し、18(5)に掲載された。

2) 単純性膀胱炎（2回目・369株）、尿道炎（1回目・淋菌84株、クラミジア19株）

成績を日本化学療法学会・日本感染症学会（2012年4月）、日本臨床

微生物学会（2013年2月）で発表し、単純性膀胱炎、尿道炎（淋菌）の論文をJICに投稿した。

2. 第2回（2010年）サーベイランス
 - 1) 呼吸器感染症（5回目・955株）
 - 2) 手術部位感染（SSI）（1回目・716株）

論文をJournal of Infection and Chemotherapyに投稿し、18(6)に掲載された。
3. 第3回（2011年）サーベイランス
 - 1) 耳鼻咽喉科領域（1回目）

全国52施設より729検体収集629株を分離し、感受性測定を終了した。成績を日本化学療法学会・日本感染症学会（2012年11月）、日本臨床微生物学会（2013年2月）で発表した。
 - 2) 複雑性尿路感染症（1回目）

全国42施設より1,036株を収集し、感受性測定を終了した。
4. 第4回（2012年）サーベイランス
 - 1) 呼吸器感染症（6回目）

全国37施設より1,273株を収集し、感受性測定を行っている。
 - 2) 尿道炎（淋菌、クラミジア）（2回目）

淋菌は全国26施設より152検体収集104株を分離し、感受性測定を終了した。クラミジアは2013年12末まで菌株を収集する。
5. 第5回（2013年）サーベイランス
 - 1) 皮膚科領域（1回目）

3菌種、1,000株を目標に全国61施設で菌株を収集している。
 - 2) 歯科・口腔外科領域（1回目）

5菌種、400株を目標に全国48施設で菌株を収集している。

12. 抗真菌薬臨床評価委員会（委員長 河野 茂）

日本化学療法学会雑誌 60 巻 3 号に委員会報告として「日本化学療法学会抗真菌薬臨床評価委員会指針」を掲載し、委員会を終了した。

13. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会（委員長 河野 茂）

平成24年6月に「抗菌薬の臨床評価方法に関するガイドライン」最終案を厚生労働省に提出した。

14. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長 渡辺 彰）

- 1) 第60回日本化学療法学会学術集会（2012年4月26日）にて委員会報告を行った。
- 2) 2012年6月13日～16日、中国（西安）にて、第2回レジオネラワークショップを開催し、アジア地域におけるレジオネラ症の疫学・診断および抗菌薬療法に関し、情報交換を行った。
- 3) 第4回症例検討会（2012年9月21日）を実施し、収集された27例について検討した。

- 4) 学会員を対象とした「菌株譲渡のお願い」、「レジオネラの治療実態を確認するためのアンケート調査（レジオネラの診断と治療に関するアンケート調査）」を実施し、集計を行った。

15. コリスチンの適正使用の指針作成委員会（委員長 二木芳人）

第 60 回学術集会で指針を公表し、日本化学療法学会雑誌 第 60 巻 4 号に最終版を掲載した。

16. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 二木芳人）

「MRSA 感染症の治療ガイドライン」の原案が完成した。

17. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長 青木信樹）

感染症治療ガイド 2011 の改訂作業を行い、新たに婦人科、整形外科、眼科、口腔外科、頭頸部、腸管感染症、耐性菌・ブレイクポイント・PK-PD の項目を追加した。また感染症治療ガイドラインの作成を始めた。

18. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

- 1) 第 60 回学術集会上において委員会報告を行った。
- 2) 4 月に Executive summary をホームページに掲載してパブリックコメントを募集し、Executive summary と literature review を「委員会報告」として日本化学療法学会雑誌第 60 巻 4 号に掲載した。
- 3) 8 月に Executive summary と literature review の冊子版、および Executive summary のみのポケット版を作成し、出版した。
- 4) 4 薬剤（VRCZ,VCM,ABK,TEIC）について、個々に JIC へ投稿することとし、VRCZ と VCM を投稿した。

19. チゲサイクリン適正使用のための手引き作成委員会（委員長 三嶋廣繁）

- 1) 5月に委員会を開催した。
- 2) 9月に「チゲサイクリン適正使用のための手引き」最終案を作成し、確認作業を行った。

20. 耐性菌感染症対策ワーキンググループ（委員長 河野 茂）

ワーキンググループの選考を行い、メンバーを確定した。

21. 将来計画検討委員会（委員長 岩田 敏）

- 1) 今後の日本化学療法学会（総会、支部総会）の、日本感染症学会等との合同開催のあり方について検討し、理事会に提言した。
- 2) 薬学系の更なる会員増を図るための方法について検討した。

22. 利益相反委員会（委員長 河合 伸）

利益相反指針および自己申告の基準の改訂、細則について検討を行った。

23. インфекションコントロールドクター (ICD)制度

平成 24 年 12 月 認定者 51 名（申請者 51 名）

(2) 平成24年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

平成25年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第61回総会（平成25年6月5日～6日）
会場：パシフィコ横浜
会長：戸塚恭一（東京女子医科大学感染対策部感染症科）
2. 第60回東日本支部総会（平成25年10月30日～11月1日）
会場：東京ドームホテル
会長：草地信也（東邦大学医療センター大橋病院外科）
3. 第61回西日本支部総会（平成25年11月6日～8日）
会場：大阪国際会議場
会長：後藤直正（京都薬科大学微生物・感染制御学）
4. 本年関連国際学会として
第28回国際化学療法学会（平成25年6月5日～8日・パシフィコ横浜）

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年6回、評議員会年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、日本医師会に疑義解釈委員会委員を、
内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
・6冊発行予定
・編集委員会を隔月開催する
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
・6冊発刊予定
・編集委員会を隔月開催とする
・JIC賞の選考を行う
- 3) 用語委員会
抗菌化学療法オンライン用語集の編纂に向けて用語の整理を行う。
略語の申請の依頼があれば適宜、対応する予定である。

2. 学術委員会

認定学術集会の認定および学術奨励賞を選考する。
海外留学補助制度の選考を行う。

3. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞の選考を行う。

4. 国際渉外委員会

平成25年6月5日～8日にパシフィコ横浜にて、第28回国際化学療法学会が開催される予定であり、第61回日本化学療法学会総会/第87回日本感染症学会学術講演会との同時期開催である。

5. 第28回国際化学療法学会準備委員会

- 1) 準備委員会を開催し、準備状況の把握を行う。
- 2) 国際化学療法学会のコアメンバーと情報を共有する。

6. ブレイクポイント臨床応用検討委員会

- 1) これまで本学会で検討されてきたブレイクポイントをさらに臨床的に使用しやすいものにするを旨とし、CLSIおよびEUCASTのブレイクポイントを参考としながら改訂を行う。
- 2) 平成26年3月末～4月初めまでにいくつかの薬剤に関して、臨床治験成績とPK-PD因子を考慮したブレイクポイント改訂の検討を行う。

7. 未承認薬検討委員会

- 1) コリスチン検討部会
コリスチンの上市にむけて産官学合同で取り組み、既発表の「コリスチン使用の手引き」の普及を図ると同時に改訂版の作成に取り組む。
- 2) 高用量ピペラシリン検討部会
高用量ピペラシリンに関して実施したアンケート結果を論文化する。
- 3) 高用量シプロフロキサシン検討部会
高用量シプロフロキサシンの承認に向けて産官学合同で取り組む。現在進行中の高用量シプロフロキサシンの臨床試験に関して委員会から適切な助言を与える。
- 4) 注射用メトロニダゾール検討部会
注射用メトロニダゾールの承認に向けて産官学合同で取り組む。現在進行中の注射用メトロニダゾールの臨床試験に関して委員会から助言を与える。
- 5) 高用量クラリスロマイシン検討部会
高用量クラリスロマイシンの臨床的意義を明らかにし、産官学合同で開発の方向性に関して検討する。
- 6) バンコマイシン経口薬検討部会
バンコマイシン経口薬に関して日本化学療法学会としての見解を示すことができるように議論を進める。

8. PK-PD 検討委員会（委員長 岩田 敏）

厚生労働省からPK-PDガイダンスについての回答を待つて学会誌およびホームページ上で公表する予定。

9. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会

- 1) 指導者制度講習会開催予定（年3回：48、49回、50回）
 - 第61回日本化学療法学会総会：平成25年6月6日（横浜）
 - 第60回東日本支部総会：平成25年10月30日～11月1日（東京）
 - 第61回西日本支部総会：平成25年11月6日～8日（大阪）
- 2) 新規申請、更新申請を受け付ける
- 3) 8月末までに新規申請者の指導医・指導者の試験を実施する

10. 抗菌薬化学療法認定医認定制度審議委員会

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定
 - 第26回 平成25年6月4日 パシフィコ横浜
 - 第27回 平成25年8月31日 東京国際フォーラム
 - 第28回 平成25年10月31日 東京ドームホテル
 - 第29回 平成25年11月 大阪国際会議場
- ・抗菌薬適正使用生涯教育ビデオセミナーを東京、札幌、神戸、奈良、福岡で開催予定
- ・委員会を数回開催予定
- ・1日コースのビデオを作製し教育資料として販売する
- ・10月末 指導医・認定医・認定歯科医の認定申請締め切り、指導医認定試験願書締め切り
- ・12月 指導医認定試験実施および認定のための作業委員会
- ・平成26年1月1日付けで認定
- ・改訂版の抗菌薬適正使用生涯教育テキストを発行する予定

11. 抗菌薬化学療法認定薬剤師制度委員会

- 1) 認定薬剤師講習会の開催
 - ・第9回 平成25年5月24日 パレアホール（熊本）
 - ・第10回 平成25年9月20日 仙台国際センター
- 2) 認定薬剤師試験実施
認定薬剤師申請者の試験を行い、認定する。

12. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

1. 第2回（2010年）サーベイランス
呼吸器感染症（5回目・955株）の論文をJICに投稿する。
2. 第3回（2011年）サーベイランス
 - 1) 耳鼻咽喉科領域（1回目・629株）
成績を国内外の学会で発表し、論文をJICに投稿する。
 - 2) 複雑性尿路感染症（1回目・1,036株）

成績を国内外の学会で発表し、論文を JIC に投稿する。

3. 第4回（2012年）サーベイランス

1) 呼吸器感染症（6回目）

成績を国内外の学会で発表し、論文を JIC に投稿する。

2) 尿道炎（淋菌、クラミジア）（2回目）

淋菌は成績を国内外の学会で発表し、論文を JIC に投稿する。

クラミジアは12月末までに菌株収集を終了し、感受性を測定する。

4. 第5回（2013年）サーベイランス

1) 皮膚科領域（1回目）

菌株収集（目標1,000株）を10月末までに終了し、感受性を測定する。

2) 歯科・口腔外科領域（1回目）

菌株収集（目標400株）を9月末までに終了し、感受性を測定する。

5. 第6回（2014年）サーベイランス

手術部位感染（SSI）（2回目）、呼吸器感染症（7回目）の2領域を対象に全国規模のサーベイランスを実施する。

13. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会

厚生労働省から抗菌薬臨床評価ガイドラインについての回答を待つて学会誌およびホームページ上で公表する予定である。

14. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会（委員長 三嶋廣繁）

2007年版のガイドライン改訂作業の在り方を検討しながら新たなガイドライン作成に向けて日本嫌気性菌感染症学会と共同で進めていく予定である。

15. レジオネラ治療薬評価検討委員会

1) 第61回日本化学療法学会総会（2013年6月5日、6日）にて、「今まで収集された症例の解析結果」及び「レジオネラの診断と治療に関するアンケート調査の結果」を報告する予定である。

2) 第61回日本化学療法学会総会（2013年6月6日・横浜）にて、レジオネラワークショップを開催する予定である。

3) 第4回症例検討会で検討した症例の追加情報について、第5回症例検討会で検討する予定である。

4) 収集されたレジオネラ菌（約100株）に対し、各種薬剤のMIC、MIECを東邦大学にて測定し、東日本支部総会で報告する予定である。

5) これまでに収集されたレジオネラ症全例の最終成績を日本化学療法学会雑誌に投稿する予定である。

6) レジオネラの診断と治療に関するアンケート調査を日本化学療法学会雑誌に委員会報告として投稿する予定である。

16. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会

1) 感染症治療ガイド2011改訂

全ての項目についてホームページでパブリックコメントを求め、発行する予定である。

2) 感染症治療ガイドライン

出来上がった項目からホームページでパブリックコメントを求め、和文誌に掲載し、同時に英訳をして、JICに Guideline として投稿する予定である。

17. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会

4月にパブリックコメントを求め、ホームページ上での公開を予定している。また冊子の作成を進める予定である。

18. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会

4薬剤（VRCZ,VCM,ABK,TEIC）のうち、未投稿の ABK および TEIC を JIC に投稿予定である。

19. チゲサイクリン適正使用のための手引き作成委員会

「チゲサイクリン適正使用のための手引き」最終案が確定後、ホームページに掲載してパブリックコメントを募集する。

20. 耐性菌感染症対策ワーキンググループ

平成25年12月21日に東京国際フォーラムにおいて「耐性菌シンポジウム 2013ー1年を総括して来年に備えるー」を開催する予定である。

21. 創薬促進検討委員会（委員長 舘田一博）

本委員会では、米国におけるGAIN（The Generating Antibiotic Incentives Now）法を参考に、抗菌薬の開発をどのように進めるか、学会、製薬企業、行政のそれぞれの視点から議論する予定である。

22. 将来計画検討委員会

本学会の在り方、今後行なっていくべき事業等について引き続き検討を行なう。

23. 社会保険委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

24. 利益相反委員会

利益相反指針および自己申告の基準の改訂、細則を施行する。

25. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：平成25年10月31日